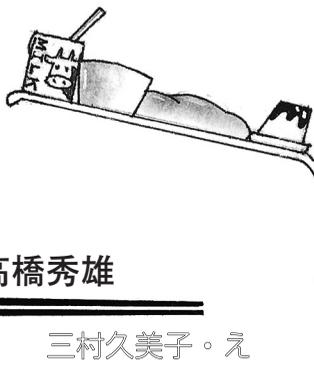


ぼくは給食大明神

3



高橋秀雄

三村久美子・え

月曜日の長い五時間目が終わって、今終わりの会。早く帰ってけやき公園で落とし穴作りだってあせっている。ちらっと仲間のリュウを見る。すぐ飛び出せるように、ランドセルが足元に置いてあった。

きのうみんなでゲームをやっていて、コウタロウのが充電切れになった。一人で、ふらふらしていたとき、植え込みの中でスコップを見つけ、ひまつぶしに穴なんか掘りだした。

ぼくは、穴掘りと公園のわきをショウゴが通ったのを見て、ぱっと思いついた。塾だの習字だのって付き合いの悪いショウゴを落とし穴に落としやろうって。

「うん、おもしろそう」

リュウがすぐ乗ってきた。コウタロウもナオキもちろんなやる気になって、きょう掘ることになったのだ。

落とし穴に落とすつもりショウゴをつい見てしまう。まじめに担任のマコちゃんのようなか見ている。一番先に落とされるのも知らないんだ、ショウゴは。笑っちゃいそう。

早く帰りたいのに、マコちゃんが、

「おうちの人にお手紙があります。名前を呼ばれたら、取りに来てね」

なんて、いい出した。

「伊東さえさん」